

富士見・曾利遺跡

国史跡に正式決定

文科省「井戸尻」へ追加指定

文科科学省は、富士見町境の「曾利遺跡」を1966年に国の史跡になった井戸尻遺跡へ追加指定する官報告示を行った。名称は井戸尻遺跡と曾利遺跡を含む「井戸尻遺跡群」。県内39件目の国の史跡として正式決定した。遺跡群を研究する同町井戸尻考古館の小松隆史館長は「史跡指定と新館建設の時期が重なり、遺跡を保存しながら活用するという重要な体制の一步が踏み出せることは非常に有意義」と喜びを語った。（佐々木孝彦）



赤線の枠内が国の史跡に追加指定された富士見町境の「曾利遺跡」(井戸尻考古館・金剛建設提供)

の直上にあり、以前から研究や保存の観点で建物の移設が指摘されていた。

同遺跡からは1960年の第1次調査後、第9次調査までに90軒以上の住居址が発見されている。さらに近年の第10、12調査で、住居址20軒と小竪穴169基が見つかるなど、縄文中期初頭から末葉にかけての拠点的な大規模集落であることが判明。出土品も数多く、縄文土器7点と「信州の特色ある縄文土器」1点が県宝に指定されている。

井戸尻考古館は、現在の建物が1974年に開館後、51年が経過し、老朽化したことから2029年度の開館に向けた新館建設の準備を進めている。小松館長は「史跡指定と新館建設を地域活性化につなげたい」と意気込んだ。

官報告示は18日付。関係者「測より早い『突然』の告示の間では当初、「告示は10月ごろだろう」という見込みがあったため、小松館長は「予

3459平方メートルの範囲。縄文時代の大集落跡で、これまで貴重な遺物が数多く出土している。現考古館の建物が遺跡